非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014　Fax 076-251-3930
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2017 年 8 月 20 日　月刊第 229 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　「草の根」の活動が世界を変える　大田健志
2 面　核兵器禁止条約とともに踏み出す私の一歩　山下明希
3 面　核のない世界の実現へ　学生 A
4 面　原発神話からの脱却―エコの村をつくる　大日方聰夫
5 面　日本のうたごえ祭典への参加の呼びかけ　山口修治
6 面　故郷の歌に思う　志田弘子
7 面　私は生き、兄は戦争のため死んだ　清水　巍
＜独標より＞ 眼について　喜多村貢
8 面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
絵手紙コーナー　矢敷節子

世界大会・広島　参加報告

「草の根」の活動が世界を変える

大田健志

今年も原水爆禁止世界大会・広島では、八月六日に「ヒロシマデー集会」が広島県立総合体育館・グリーンアリーナで開催され、国内外から約二〇〇〇人が参加しました。集会では、日本原水爆被害者団体協議会の田中熙巳代表委員、そして非核国家オーストリアのマルチン・クリューガー外務省軍縮軍備管理不拡散局次長の発言が印象的でした。

2017 年世界大会・ヒロシマデー―集会

田中熙巳氏は、まず今回の世界大会が歴史的・感動的な核兵器禁止条約採択後の開催であることを喜びたい、そしてヒバクシャ国際署名で目標にしていた二〇二〇年よりも早く条約実現ができたことも嬉しいことだ、と発言されました。また、条約の文中にヒバクシャに関する記載が入ったことにも触れ、感謝とともにヒバクシャの長年の活動の意義を確信した、とも語っておられました。メッセージの最後には、「武力では市民社会の安全は守れません！」と高らかに宣言し、日本政府を条約に参加させることが必要だと訴えました。

マルチン・クリューガー氏も、会場の盛り上がりをみて、この活動が間違ったものではないと確信した、と笑顔で話されていました。核兵器禁止条約は九月二〇日に署名が始まり、五〇カ国が批准した後、九〇日後に発効します。クリューガー氏は、ぜひ二〇一八年中に条約発効を達成し、二〇一九

花鳥風月

いつの時代でも価値ある建築芸術は、子どもの手に掴まれた糸がするすると伸びて大空に凧が上がるように、それを大地に引いている糸の緊張によって芸術の世界に飛翔したのである。時に、糸を断ってひとときの自由を求めた建築作品もあったが、その弱々しい光彩はたちまち消え失せてしまった（山本学治『現代建築論』一九六八年）▼その時代の、人間生活全体に強く結びつけられた糸の緊張――私にとっても座右の銘であり、今日では社会のあり方への警告でもある。先月「新国立競技場建設現場で働く新入社員自殺、厚労省が実態調査へ」の報道に厚労相は「建設業は時間外労働が青天井の世界」と語ったが▼「近代産業の全歴史がしめしているように、資本は、もしそれをおさえるものがなければ、むちゃくちゃに情容赦もなくふるまって、全労働者階級をこの極度の退廃状態におとしいれる…」と述べたマルクスの国際労働者協会中央評議会での講演は一八六五年。わが国が明治維新に向かう「安政の大獄」の頃▼いまバブル崩壊から二六年を経過した日本社会では、「人間発達の場」である筈の時間が「人間絶望の空間」となって、多くの青年の行く手に立ちはだかる。（こ）

年にはオーストリアの首都ウィーンで第一回の締約国会議を開催したいと力強く展望を述べていました。

他にも各国の政府代表からの連帯の発言や、青年企画のトークセッション「いかに政治を変えていくのか」でも国内外の発言者から、市民そして国を越えた連帯の必要性、その実現への未来志向な取り組み・希望が示されました。

最後に「広島からのよびかけ」を採択。すべての国の核兵器禁止条約への参加や、日本政府がアメリカの「核の傘」から脱却する必要性、そのためには九月二〇日から九月二六日に実施予定の世界同時行動「平和の波」に呼応した「草の根」の運動によって、核兵器のない世界をつくる決意が示されました。鍵となるのは、私たち一人ひとりが考え、行動し、世界を変えていく「草の根」の取り組み。それこそが、平和で核なき未来をつくるのだと再確認することができる世界大会でした。

（はだしのゲンをひろめる会）

◎核戦争を防止する石川医師の会は九月二三日、近江町交流プラザで「国連・核兵器廃絶デー企画」映画と講演会を計画しています。詳細は本紙八面「非核・平和の掲示板」を参照下さい。

世界大会・長崎　参加報告

核兵器禁止条約とともに踏み出す　私の一歩

山下明希

夏の暑さ、人混み、団体行動が苦手な私ですが、この夏、原水爆禁止世界大会に参加しようと決めたのには、ふたつ理由があります。ひとつは、中学二年生の息子をダメもとで誘ったら、「行ってもいいよ」と応えてくれたこと。もうひとつは、今年三月に林田光弘君の講演を聞いていたこと、このふたつが大きなきっかけでした。

林田君は長崎生まれの被爆三世。長崎生まれの自分には、原爆について伝えていく役割があると語っていました。私よりずっと若い彼が、生まれ育った環境や背景、核をとりまく現状を学び、自分は何ができるか、何をすべきかと考え行動する姿はとてもまぶしく、心を揺さぶられました。

長崎大学医学部・原爆犠牲者の銘板

核兵器も戦争もない世界のために私ができること、その一歩に、この世界大会参加を位置づけました。私自身の学びと、多感な時期の息子が、自分の目と耳と足で長崎を体感してくれることも淡く期待して出発しました。

◇　◇

開会総会の会場である長崎市民会館は、全国からの六千人の参加者であふれていました。体育館に行くと、二階席までびっしりうまり、立ち見の人もいっぱい。ちょうど、参加している海外代表のみなさんが紹介されているところで、出だしからこの大会のスケールの大きさを実感しました。息子も、世界から全国からこんなにも多くの人が集まっていることに圧倒された様子でした。

国連軍縮担当上級代表の中満泉さんが壇上に立つと、あちこちからカメラを片手に参加者が駆け寄っていたことも、核兵器禁止条約が採択された喜びを感じる場面でした。もちろん私も駆け寄ったひとりです。中満さんは、条約の意義と、国際社会が今後どのように連携していくかについて話されました。「条約は、被爆者のみなさんの長年の取り組みが結実したもの」と話されたことが印象的でした。

二日目は、動く分科会「ナガサキの被爆遺構・碑めぐり」に参加しました。長崎の被爆についてほとんど知らない私と息子にとって、原爆の恐ろしさと悲惨さ、被爆した長崎に直接ふれる貴重な一日となりました。

小学五年生の夏に被爆した大塚さんのお話は、「被爆者は人間として死ぬことも、人間らしく生きることもできなかった」という意味が深く重く伝わるものでした。浦上は軍事工場の町だったこと、ウジ虫を取り除くことがセンター病院の最大限の治療だったこと、原爆の被害が隠ぺいされ病院にも通えない状態が一二年も続いていたこと、初めて知る原爆の事実でした。被爆者手帳は「たたかいの成果」であり、核兵器禁止条約も「たたかいの成果」だという言葉が強く印象に残っています。被爆者の七二年はたたかいの歴史だということを感じました。

被爆体験を聞いた後、爆風で壊された山王神社の鳥居、二本のクスノキ、長崎大学医学部、浦上天主堂などを巡りました。緑豊かな長崎大学医学部の中庭に、原爆で犠牲になった全員の氏名が刻まれた銘板が設置されていました。「誰か」ではない実名を前にし

て、その九〇〇名近い教員や学生が描いていた未来があっただろうと思うと胸がつまりました。そんな命が、長崎には何万とあったわけです。

最後にまわった長崎原爆資料館は、展示品のひとつひとつから被爆の悲惨さが伝わり、特に「長崎の子供らの手記」は、読み進めることが辛かったです。資料館は、核兵器開発の歴史や世界の反核運動などの展示も充実していました。壁一面を使った年表から、核兵器のない世界を目指す市民運動が、核軍縮に大きな影響を与えていることがわかります。「だるい」が口癖になっていた息子も、資料館はじっくりまわっていました。彼の感想文の一部です。「表面だけしか知らなかった戦争の恐怖とは違い、実際にあったことを聞き知ることができてとても勉強になった」

最終日の閉会総会では、国連会議のホワイト議長からサプライズのメッセージがあり、会場は大きな拍手で盛り上がりました。原爆訴訟をたたかった松谷さんは「長崎を最後の被爆地に」と訴えました。草の根で運動する海外代表の発言に刺激を受け、一万人署名に取り組む高校生、少年少女のつどいに参加した小学生、民医連の若手職員など、平和をつなぐ若い参加者からの発言は頼もしく、胸が熱くなりました。

◇　◇

核兵器禁止条約が採択された喜びと、私たちの運動が歴史を変えたという確信に満ちた大会。核兵器廃絶にむけた世界の、全国の取り組みを実感した三日間でした。

唯一の戦争被爆国である日本の、その日本に生きる私のこれからの歩みが問われています。私にできること、とりわけ「ヒバクシャ国際署名」は、これからも対話を続けながら取り組みたいと思います。

最後に、代表として送り出してくれた健康友の会、健生クリニックのみなさんに心から感謝します。ありがとうございました。

（石川県健康友の会連合会）

・・・・・・・・・・・・・・

核のない世界の実現へ 明るく元気に活動していきたい

学生A

今回この世界大会に参加し、私の中の思いが爆発し、変化した気がします。この世界大会に参加する前の私というのは、今まで学校の授業で原爆というものの恐しさを学び、広島の原爆ドーム、原爆資料館にも足を運びましたが、単純に原爆の怖さや被害について知っただけでした。完全に過去のものとして考えていました。しかし安倍政権が安保法、共謀罪と次々に強行採決をはじめ国会を私物化する姿を日々見る中で、私は何ができるだろう、言葉ばかりで何も行動できていないのではないかと自分に問いただしていました。そんな時にこの大会のことを知り、私はすぐ参加しようと思いました。

はばたけ折り鶴！から始まったこの大会で最初に印象に残ったのが、Ring Link Zero 2017で発言されていた和田征子さんのお話でした。家の隣が火葬場で毎日毎日遺体が運ばれ焼かれていく。臭いもひどく精神的にも辛かった。しかし今日は何人だった、多かった少なかったとだんだん慣れてしまう、心がマヒしてしまうという体験を聞き、私は胸が締め付けられる思いでした。私たち戦争を体験したことのない世代にとってその事実はとても衝撃的なものでありました。この話を聞き、私はこの事実をもっと多くの人たちに知ってほしい、伝えたいと思いました。同時に核兵器禁止条約が採択されたとき、和田さんはパソコンの前で手を叩いて喜んだとおっしゃっていました。私はこのような人たち、被爆者の方々のお話をもっと聞きたい、一緒に活動したいという思いが強く芽生えました。

Ring Link Zero 2017の和田さんと筒井さんの対話の後の質疑応答、対話の時間の中で、若者として何ができるかという質問について話されました。今私たちがすべきことは声を上げることであり、自分たちの考えを世界に発信することです。そしてそれを続けることが核のない世界の実現につながることなのだと思います。

私は分科会2の「非核平和のアジアと日本の役割」に参加しました。この分科会では韓国、フィリピン、ベトナム、インド、アメリカの海外代表の方々も参加され、各国の社会状況や取り組んでいる活動など様々な報告をしていただきました。この報告の中で皆さんが共通しておっしゃったことは、北朝鮮に抑止力は通用しない、外交で解決、威嚇は北朝鮮のミサイル開発をさらに進めさせるということでした。

私たち日本がしなければいけないことは核兵器禁止条約の流れに乗り、核のない世界を実現させるために全力を尽くすことです。そして唯一の被爆国として先頭に立ち、国際会議の中

で北朝鮮との国交回復、アメリカ従属から抜け出し一つの国として発言する。また北朝鮮とアメリカの緊張状態を会議で話し合い対話により解決することが必要となってくると思います。

この分科会を終えた後、宿泊先のホテルにてそれぞれの分科会の感想を渡辺裕子さんと交流し合いました。その中で被爆者の水野さんの体験がとても印象に残りました。その水野さんが語ってくださった被爆者の方の体験を聞き、再び私は胸が締め付けられました。渡辺さんもおっしゃっていましたが、九歳の子供にこんな辛い思いをさせる核兵器って何なのだろう、核兵器というものはどこまで非人道的なのだろうという気持ちになりました。そんな思いを抱きながら参加した閉会式で合唱隊の皆さん、自分よりも小さな子供たちが目を輝かせて発言し、歌っている姿を見て、真剣に取り組むことはもちろん大切だが明るく元気に活動していくことが何より大切なのだなと思いました。この発見、学びを今後の自分の目標とし、これからも精一杯頑張っていこうと思います。

◎本会から世界大会参加費を補助した学生の感想文です。

◇講演要録◇

原発神話からの脱却
エコの村をつくる
―持続可能な共生社会―

NPO法人 まめってえ鬼無里
理事　大日方聰夫（おびなたとしお）

はじめに

地球では現在、慢性疾患（温暖化）と急性疾患（放射能汚染）が進行しています。いずれも対策を講じないと、生命が息づく貴重な惑星が普通の惑星に変身します。要因は、人類が様々なエネルギー（以下、エネと略記）の源としている二種類の化石エネです。

温暖化の要因（太陽系化石エネ）

世界各地の異常気象が報道されています。温暖化による異常気象の発生や今世紀末の回復不能な地球環境の変化を国連のＩＰＣＣ（気候変動に関する政府間パネル）は予告していますし、昨年十一月に世界気象機関（ＷＭＯ）が一昨年の地球平均気温は産業革命前に比べ一度上昇したと発表しました。

ＩＰＣＣは化石燃料（石炭、石油、天然ガス）による温室効果ガス（ＧＨＧ）の増加が温暖化の原因である可能性は極めて高い（九五％）としています。

ＧＨＧは温暖化の原因ではないし、百年先の地球環境など予測不可能だ、とする反論もありますが、ＩＰＣＣの報告は信頼性の高いものです。「慢性」とは言え、緊急な対策が今必要です。政策立案の際、欧州で確立した倫理規定、予防原則を考慮することは重要です。

【予防原則】

環境や健康への深刻な悪影響が予想される場合、科学的根拠が十分でなくても、予防対策を延期してはならない。

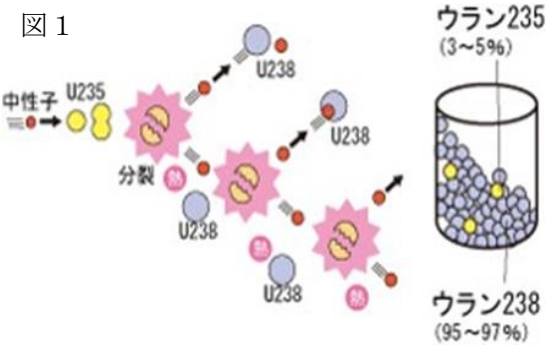
温暖化の原因である化石燃料が保有するエネは、地球進化の過程で、今から三～五億年前に太陽から届いたエネが有機物という分子の結合形態を利用して保存されている化石エネですので、〝太陽系化石エネ〟と呼びましょう。

放射能の要因（宇宙系化石エネ）

六年前の福島第一原発事故は、国際評価尺度でレベル７（最悪）の深刻なものでした。汚染地域は回復可能なのか心配です。「安心・安全」な原子力エネは、実は地球上では制御不能な「異質性」を持つ代物で、原子の中心にある原子核内に潜んでいます。何時どこで原子核内に侵入したのでしょう。

宇宙は、一三八億年前に小さな点として生まれ、直後の大爆発（ビックバン）で始まった膨張は今も続いています。宇宙内に分散した物質、宇宙ゴミが集まって星ができ、輝きながら成長して最期は超新星爆発で再び宇宙ゴミになる過程を繰り返しながら、宇宙は様々な原子核を造ってきました。

図１



$$^{235}_{92}U + n \rightarrow ^{92}_{36}Kr + ^{142}_{56}Ba + 2n + 1.86\times10^{8}eV$$

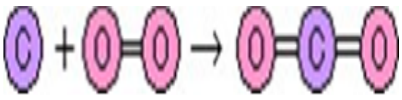
鉄の原子核より重い原子核は星の最期である超新星爆発の中心に残る中性子星（サイコロの質量が三五億トン）経由でつくられます。圧縮に使った莫大なエネは中性子星（超高密度）物質に詰め込まれ、その物質で造られる重い原子核にも分配されます。原子核内のエネは正に、宇宙の輪廻転生を背負った化石エネですから〝宇宙系化石エネ〟と呼びましょう。この化石

エネの地球上での直接使用が原爆や原発です。

宇宙系化石エネを取りだすには、核分裂させます。核燃料であるウラン２３５に中性子を一個入れて、二つの原子核に分裂させます（図１）。

画像直ぐ下の文字式で示すように、核分裂と同時に一億八千六百万［ｅＶ］のエネが放出されます（［ｅＶ］はエネの単位）。このエネは熱ではなく塊です。私たちにとって親しい燃焼現象では、四・一［ｅＶ］のエネが出ます（図２）。

図２



$$C+O_2 \rightarrow CO_2+4.1eV$$

炭素の燃焼に現れたエネの大きさ（数［ｅＶ］）が地球上の自然現象に関するエネの普通の大きさです。原発では、普通の大きさの一億倍の塊がたった一個の核分裂で出現します。厚さ十六センチの鋼鉄製圧力容器がメルトダウン（炉心溶融）しました。これが宇宙系化石エネの「異質性」その一です。原子核を司る法則は不確定性が基本で、私たちが体験する決定論的法則と異なり、例えば、放射能の半減期（半分になる時間）を制御することは不可能です。これは「異質性」その二です。私たちが感知する基本的な力は重力と電磁力ですが、原子核の世界の基本的な力は「強い力」と「弱い力」であることは「異質性」その三です。「強い力」の到達距離は一ｍを一〇で一五回割った程度ですが、強さは重力に一〇を四〇回掛けた値です。

おわりに

四十億年という年月をかけて育んできた地球の生命を、人類という生物が、ほんの二～三百年で消滅させないよう、長野市鬼無里では取組みを始めました。

鍵はエネです。二種類の化石エネに依存する文明を脱却し、自然エネを活用する持続可能な新しい文明社会の構築に向かおうではありませんか！

◎七月二二日、近江町交流プラザで開かれた原発を考える石川女性の会総会記念講演要旨です。大日方聰夫さんにまとめていただきました。

非核・平和のひろば

『２０１７日本のうたごえ祭典 in いしかわ・北陸』紹介と参加よびかけ

山口修治

毎年六月からスタートする平和行進では、広島・長崎に向かって町々を核兵器禁止・廃絶を呼びかけながら歩きます。その折々に小森香子さんが作詞された『青い空は』が♪青い空は青いままでこどもらに伝えたい…♪と歌われ、行進者たちを励ましています。また、労働組合の集いなどでは、森田ヤエ子さんが作詞し荒木栄さんが作曲した『がんばろう』が♪がんばろう／つきあげる空に／くろがねの男の拳がある…♪と歌われ労働者を励ましています。

これらの歌は、総称して『うたごえ』と称され、職場・学園・地域で、闘いはうたごえと共に、うたごえは平和の力、うたごえは生きる力、などのスローガンと共に、親しまれ、うたいつがれてきています。

全国のうたう仲間や賛同されるみなさんが、全国祭典を毎年開催されており、今年は金沢を中心に一一月二四日～二六日にかけて『２０１７日本のうたごえ祭典 in いしかわ・北陸』として開催されます。

うたごえは石川県とは縁が深く、日本で最初の米軍基地反対闘争といわれている一九五二年の米軍試射場建設に反対して闘われた内灘闘争、全国からも多くの支援の方々がかけつけ、その中で、♪一つ日の丸むしろ旗…とうたわれた『内灘かぞえ唄』が出来、闘いを励ましました。

戦後の民主化の影響もうけ、相前後して全国でもうたごえ運動が盛んになり、現在の全国祭典が開催されるようになってきました。

今年は、石川県での開催となり、石川のうたごえ協議会に参加している合唱団を中心に、県内の様々な団体や個人および福井・富山のうたごえのみ

なさんで現地実行委員会が結成され準備にあたっています。

僕も、よびかけ人の一人となり、色んな所に宣伝・要請に回っています。また、民謡調労働歌『笑顔を守る』を創作し、祭典へ臨む思いも強めています。

クミコさんの『うまれてきてくれてありがとう』、梅原司平さんの『折り鶴』や、オーケストラ・アンサンブル金沢の『フィガロの結婚序曲』、郷土芸能『こきりこ』『麦屋節』、そして全国の職場・地域・学園で歌われているうたごえがたっぷりと鑑賞できます。

みなさん、ぜひ一緒に歌いましょう！ぜひ鑑賞に来てください！！

非核石川の会リレーエッセー

ふるさと
故郷の歌に思う

志田弘子

福島から避難された方の新聞投書に、歌「故郷」　♪山は青きふるさと・・水は清きふるさと♪　この歌を歌えない・・帰りたくても帰れない無念さが記されてあった。立ち尽くす家族の姿が目の前に浮かんだ。

東日本大震災・・大地が揺れ、押し寄せた津波と、最悪の事故、絶対安全であるはずの原発が崩れ落ちた。平和利用と言いくるめ、お金で黙らせてきた国策である原発が、まさか、これほどまでに脆かったとは・・。

誕生から四十六億年、火の玉が冷め、放射能が減り、ようやく生き物が住めるようになったいのちの星・・その地球に、果てない欲望や技術への奢りが再びもたらした〝天の火〟（核）による放射能は、故、高木仁三郎さんが触れているように、人間が統べることのできないものであることを、千年、万年の時間をもってしても消せず、処分すらできないことを知ってしまった。

帰りたくても帰れない・・豊かに取り囲んでくれた自然を思う言いようのない喪失感と、暮らしを破壊され、なお選択を迫られる辛さ・・この歌を聞く時、どれほど赤い涙がしたたり落ちたことだろう。その苦しみを踏みにじるように、教訓にすらせず、まだしがみつく国策の愚かさとは・・誰のための国なのだろう・・。

自然や日々の感動を、歌に、詩に、絵に込めたい・・そんな、表現せずにはいられない気持をも　国に抗うこととして罪に問われかねない時代の流れの中で、すべてを金で量る魂を売った人たちの曇った眼には、故郷に息づくいのち、この身を包んでいてくれるものが見えないのだろうか。

家族たちは、寄り添い、子を抱く。いのちをつなぎ、手渡してゆく・・このあたりまえの光景をも、目に見えぬ放射能は、いともたやすく断ち切ってしまう。表土をはぎ取り、緑を切り倒しても・・不安は消えず、哀しみは尽きず、寄り添う故郷は・・見つからない。

どうして歌えることだろう。

ふるさと

友禅染絵　志田弘子

私は生き、兄は戦争のため死んだ

清水　巍

私は福島県の喜多方で、一九四二年（昭和一七）五月二〇日に生まれました。母と兄が近所の銭湯から家に帰ってきた直後、陣痛が始まったそうです。父親はその時不在だったので、母は兄に「近所の人、誰でもいいから呼んで来て」と言いました。幼い兄は、おそらく「母ちゃんが大変だ！すぐ来て！！」と叫んで回ったのでしょう。その間に、私は「へその緒」をつけたまま畳の上に飛び出してしまったそうです。近所の人や産婆さんが駆けつけてくれ、今日の私の無事があります。写真は私の生後九〇日目のものと、父親の岐阜での出征の時の兄と私です。

生後90日目の私

父親のお里は岐阜で祖父母がいましたから、私が一才の時、岐阜に行った記憶は幾らか残っています。しかし、命の恩人である兄の記憶は無いのです。私が二才になる前の昭和一九年二月六日に亡くなりました。戦時下の冬の夜中、「おなか痛いよ」と泣く兄を抱きながら、父親が燈火管制下にあった岐阜市の医院や病院を何軒も必死に回りました。どこでも断られ、青白くなり、息も絶え絶えになった兄を診てくれた最後の病院で「腸閉塞です。もう手遅れです」と言われたそうです。

前列左から3人目、母親の膝上の私、その右が兄

私は再び、そんな戦時下の日本を作らないために、そして日本の人が十分な医療を受けることができるようにするために、民医連に参加し、非核の政府を求める会に入っています。私の原点の一つを書かせて頂きました。

詩人会議かなざわ「独標」より

眼について

喜多村　貢

あの頃の眼にはあたたかみがあった
いま　眼は冷たい悪意を秘めて
あらゆるところに光っている

にんげんの眼ではない権力の眼
その眼が新聞やテレビ　ラジオから
毒矢のように放たれ

ファミレスでお茶しても　街を歩いても
スーパーへ買い物に行っても
不審者を見るように注ぐ別の眼

ブータンはこんな世界を知らない
夜は満天の星が輝き
昼は平穏な日常があるだけ

清貧を受け入れ
幸福を優先して
生きている人達の眼のやさしさ

監視の眼の海に泳いでいると
いつしか自分にまで芽吹く
性悪な卑しいこころにはっとする

毎日　こころを鏡のように洗い
曇らせてならないわけは
真実を見失わないため
怯む正義を支えるため

吹き荒れる嵐に備え
明日という暦をめくれ

《編集室より》

◎「総理、あなたはどこの国の総理ですか。今こそ日本が核兵器廃絶の先頭に立つべきです」と長崎の被爆者団体の代表が直接安倍首相に、核兵器禁止条約への参加を迫った▼今年は六日の広島市平和記念式典、九日の長崎平和式典をテレビ生放送で視聴。報道各社のニュースも観た▼広島市長や県知事、市議会議長、国連事務総長（代読）、長崎市長や被爆者代表の皆さんが核兵器禁止条約と核廃絶の期待と決意を語られた▼ただ一人安倍首相は両市の式典挨拶でも核兵器禁止条約には一切言及しなかった▼広島の被爆者団体の代表は「被爆国の日本が驚くべき態度。核兵器禁止条約に反対するなら、このような政府を許さずそれを変えていく決意を申し上げる」と厳しく批判されていた。非核の政府を求める会の役割は大きい。（平）

シリーズ 石川の地域点描 ⑫

フォトグラファー　中西　優

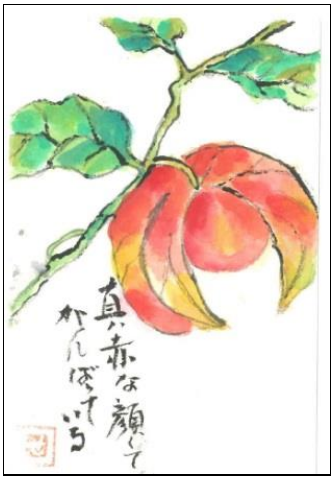
今年の夏はたくさんのひまわり畑に通いました。石川県と言えば三五万本の花が見ごたえがある河北潟ひまわり村が有名ですが、写真で紹介した白山市鳥越に今年からできた畑や金沢市内から二〇分ほどで行ける金沢市平栗の畑なども近年有名になっています。

ひまわり＝向日葵と書くことから「太陽の方向に向かって咲く花」と思われがちですが、成長度合いやその年の状況によって、向きがバラバラという個性的なところも個人的に気に入っています。

多くの家族連れで賑わうひまわり畑＝白山市鳥越

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　矢敷節子



非核平和の掲示板

	日	曜	時	内容	場所
8	26	土	11:00	「9条の会」北陸ブロック交流会　記念講演　清水雅彦さん「険しい憲法情勢の中でたたかいの発展をめざして」－憲法9条の偉大さと誇りー	富山市安住町・サンシップとやま
	27	日	13:00	いしかわ県民教育文化センター　2017年夏の交流研究集会講演　沖縄・高江　「ヘリパッドいらない住民の会」伊佐真次さんーやんばるの報告ー	金沢市富樫3丁目・教育プラザ富樫
	29	火	18:30	2017年原水爆禁止世界大会石川県代表団報告会	金沢市京町・石川勤医協会館3階ホール
9	3	日	13:30	第3回いのちとくらしを守る市民集会　わたしの「ディーセントワーク」脇坂唯さん、山岸淑子さん、伍賀一道さん、碇山洋さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階
	6	水	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	10	日	10:00	石川のうたごえ祭典	金沢市尾山町・石川県文教会館
	10	日	14:00	鶴彬碑前祭	かほく市高松町・高松歴史公園
			15:00	映画会「横浜事件を生きて」	同上　・南町会館
	23	土	14:00	原発をなくす石川県連絡会 総会	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階
	23	土	17:30	国連核兵器廃絶デー「ヒバクシャ国際署名」行動	金沢市青草町・近江町市場入り口バス停付近
	23	土	18:30	国連核兵器廃絶デー映画と講演・反核石川医師の会主催映画・この空を見上げて＝石川の被爆者たちの証言、講演「核兵器禁止条約について学ぶ」山口大輔さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ集会室
10	6	金	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	15	日	未定	被爆三世・林田光弘講演会	金沢市高岡町・松ヶ枝福祉館4階集会室
	28	土	未定	映画「日本と再生」上映と講演・鈴木悌介さん	金沢市鞍月・地場振興センター本館6階
	28日（土）～29日（日）			2017年日本平和大会in岩国	山口県防府市・岩国市

＊ 祝日は休日とします　＊ 毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊ 毎月15日石川県沖縄連帯デー